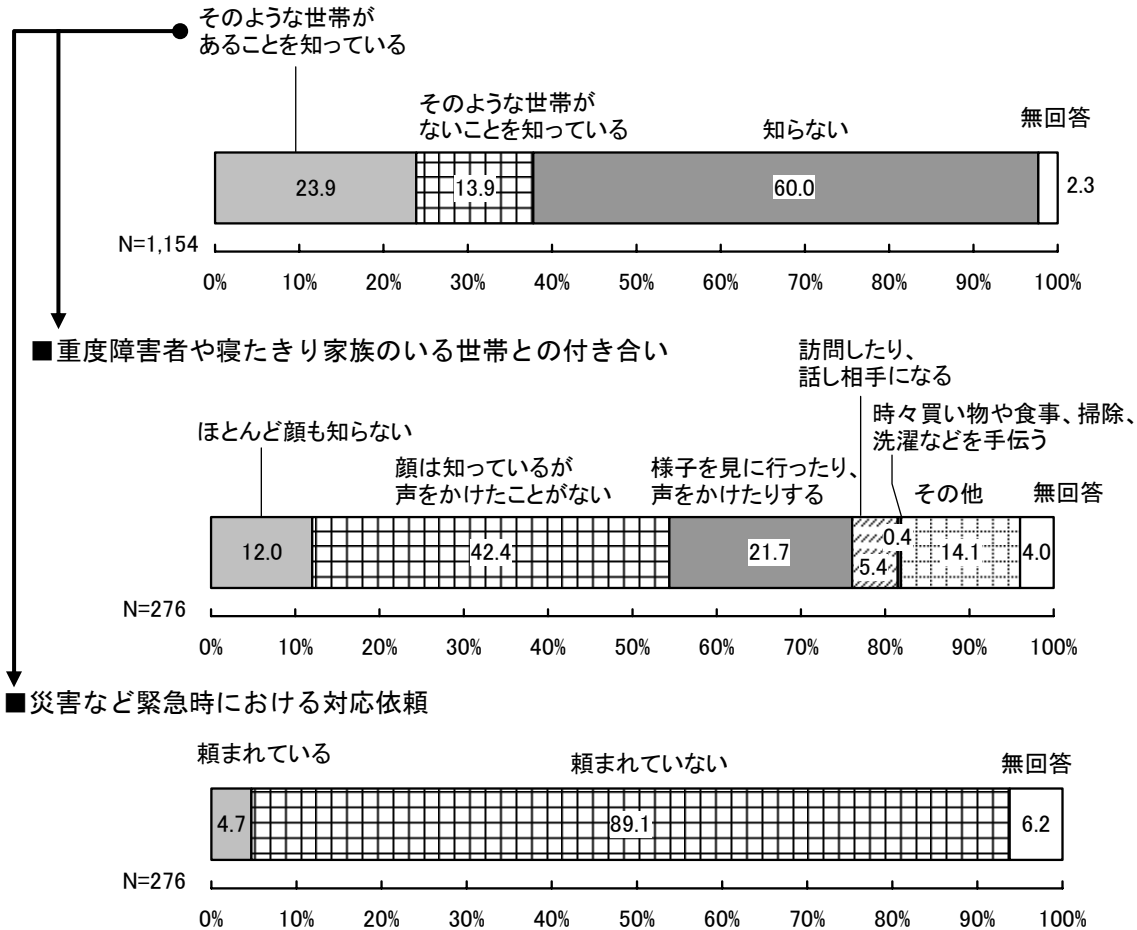


◆障害者の災害支援について

問 23 あなたがお住まいのご近所や地域に、重度の障害を持つ方や寝たきりの方がいる世帯があるかどうかご存知ですか。(1つに○)

問 24-1 あなたは日頃、重度の障害者や寝たきりの家族がいる世帯と、どの程度の付き合いをしていますか。(1つに○)

問 24-2 あなたは、重度の障害者や寝たきりの家族がいる世帯から、災害時や事故など、緊急事態が発生した場合の対応を頼まれていますか。(1つに○)



地域における重度障害者や寝たきりの家族が同居する世帯の把握は、4割弱。親しい付き合いは、女性や高年代で多い。

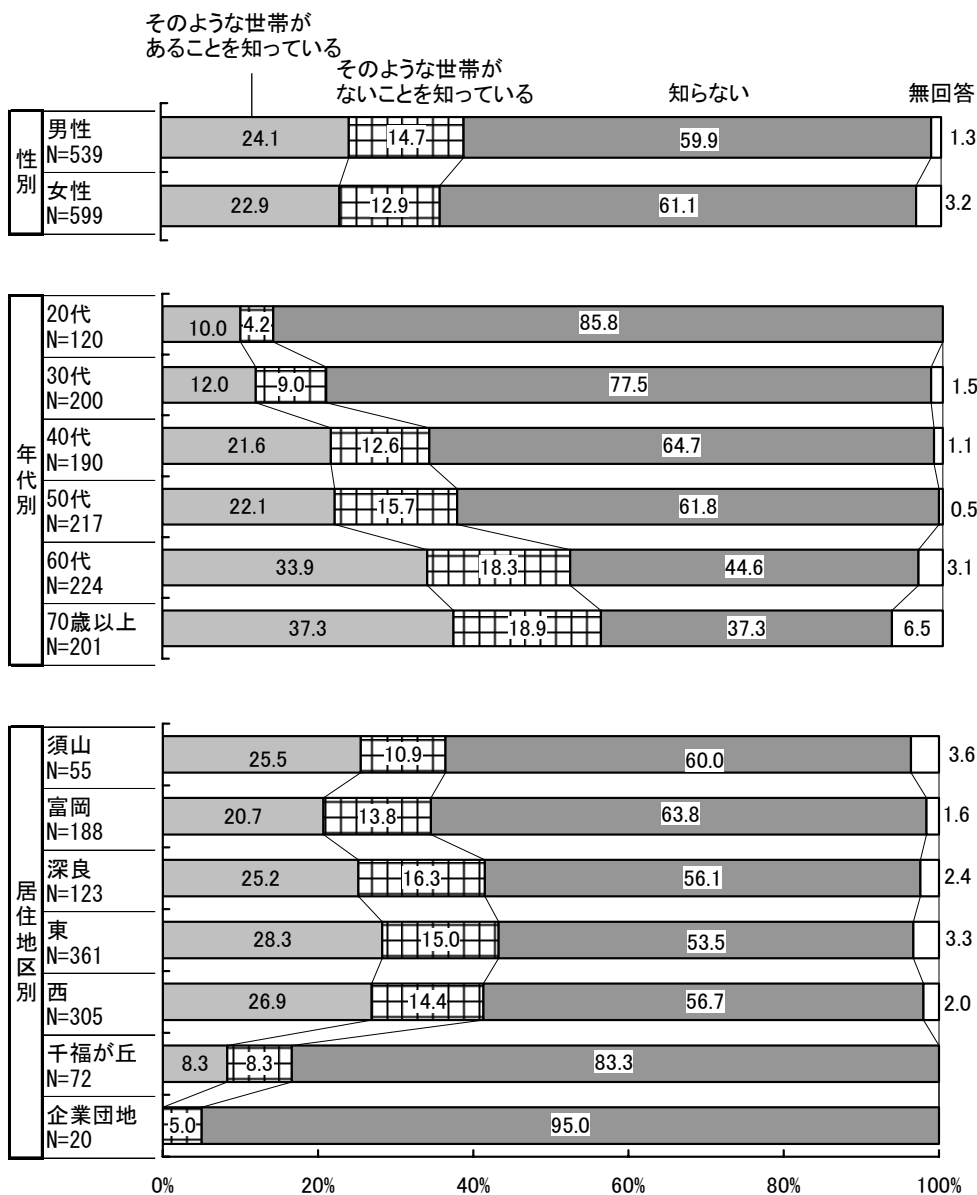
地域における重度障害者や寝たきりの家族が同居する世帯の把握状況は、「知らない」が6割を占めている。「ある」「ない」合わせて「知っている」は4割弱を占め、「ある」方が「ない」を10ポイント上回っている。

あることを知っている場合、そのような世帯との付き合いの程度は、「顔を知っているが声をかけたことがない」が42.4%で最も高い割合を占めている。次いで「様子を見に行ったり、声をかけたりする」が21.7%となっている。

また、重度障害者や寝たきりの家族が同居する世帯から、災害時などの緊急時における対応を受けているかについては、「頼まれていない」が大半で、「頼まれている」は、わずか4.7%にとどまっている。

【属性別】

■ 重度障害者や寝たきり家族のいる世帯の把握状況



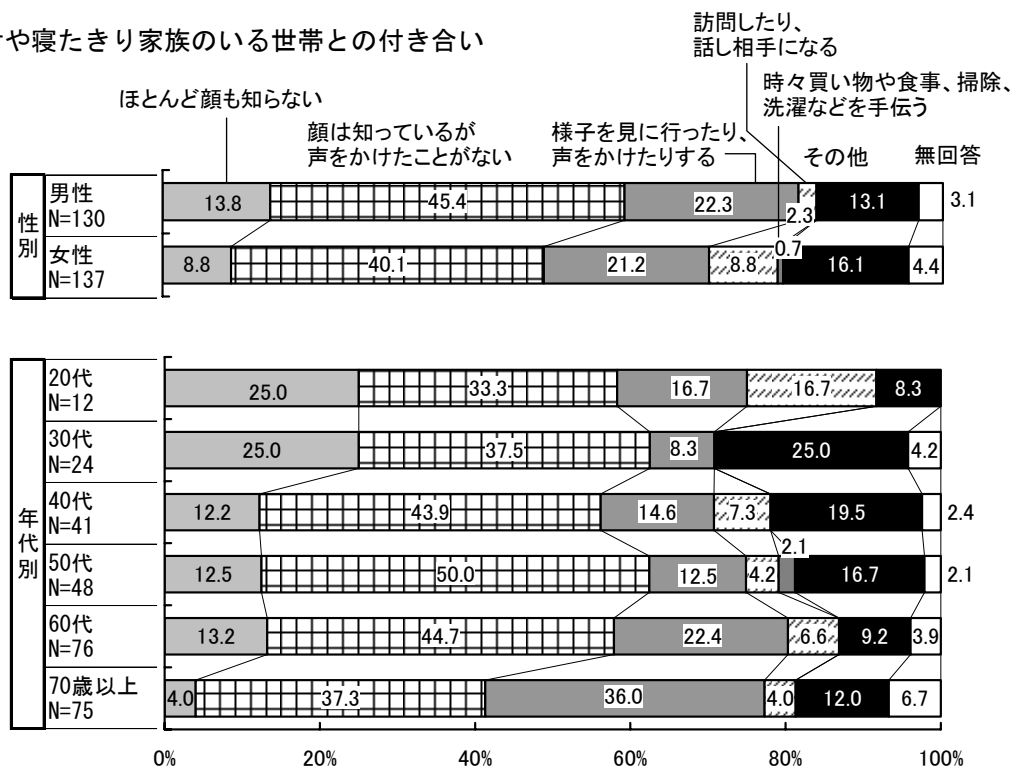
重度障害者や寝たきりの家族がいる世帯の把握状況を性別にみると、「ある」「ない」のいずれも「知っている」割合は、男性が女性を上回っている。

年代別では、年代が高くなるほど「知っている」割合が高くなっており、60代以上では過半数が「知っている」のに対し、20代は8割が「知らない」となっている。

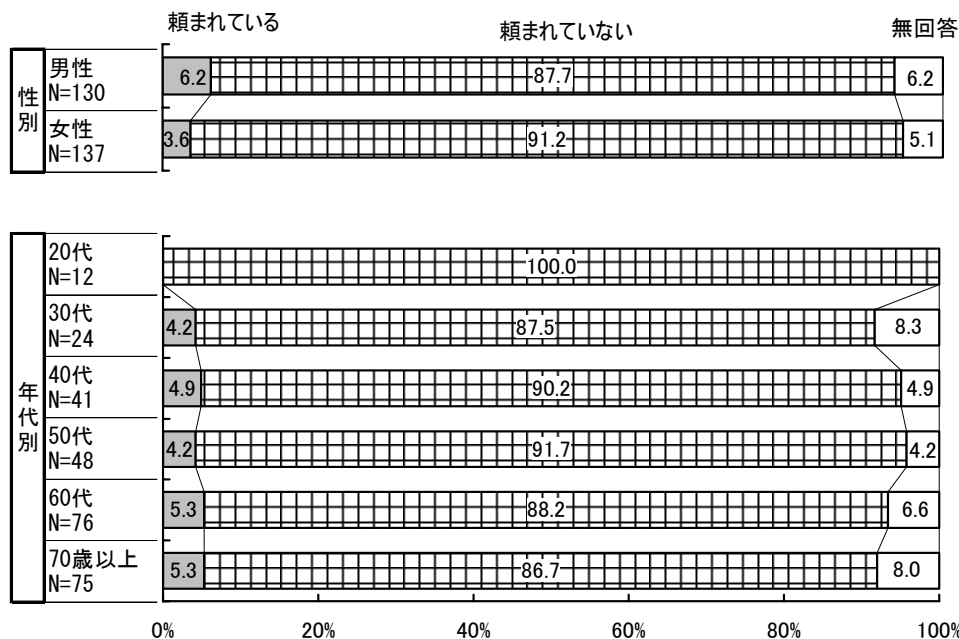
居住地区別では、深良、東、西では「知っている」が4割台と高く、千福が丘、企業団地は「知らない」が8～9割と大半を占めている。

【属性別】

■ 重度障害者や寝たきり家族のいる世帯との付き合い



■ 災害など緊急時における対応依頼



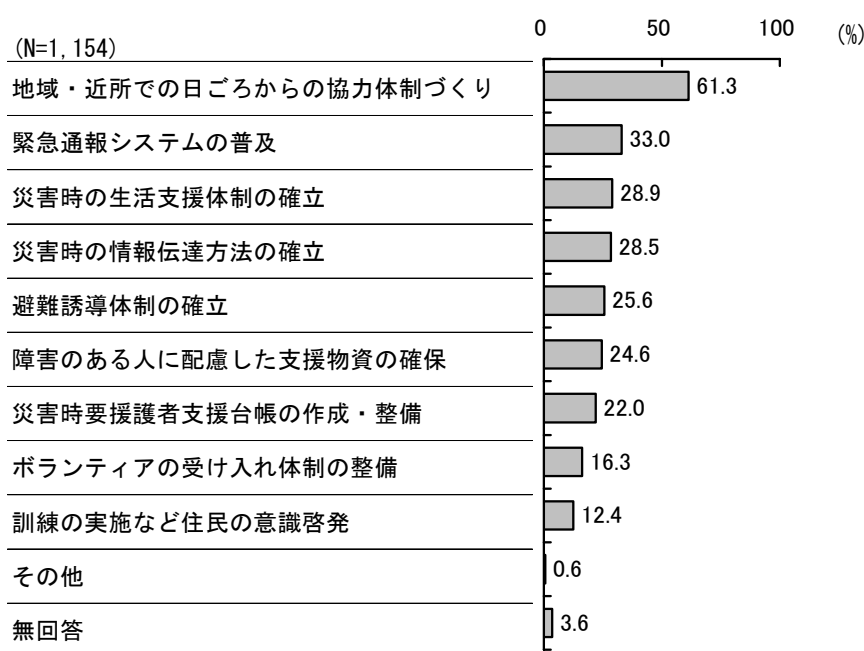
重度障害者や寝たきり家族のいる世帯との付き合いの状況を性別にみると、親しい付き合いになるほど、女性の割合が高い傾向である。

年代別では、年代が高いほど、付き合いの程度が親しい方の割合が高くなっている。

災害などの緊急時における対応について性別にみると、「頼まれている」は、男性が女性をわずかに上回り、6.2%となっている。

年代別では、極めてわずかな差であるが、年代が高いほど「頼まれている」割合が高くなっている。

問 25 災害時に備えて、重度障害を持つ方や寝たきりの方に対する支援策として、行政や地域が特にどのようなことに取り組むべきだと思いますか。（3つまで○）

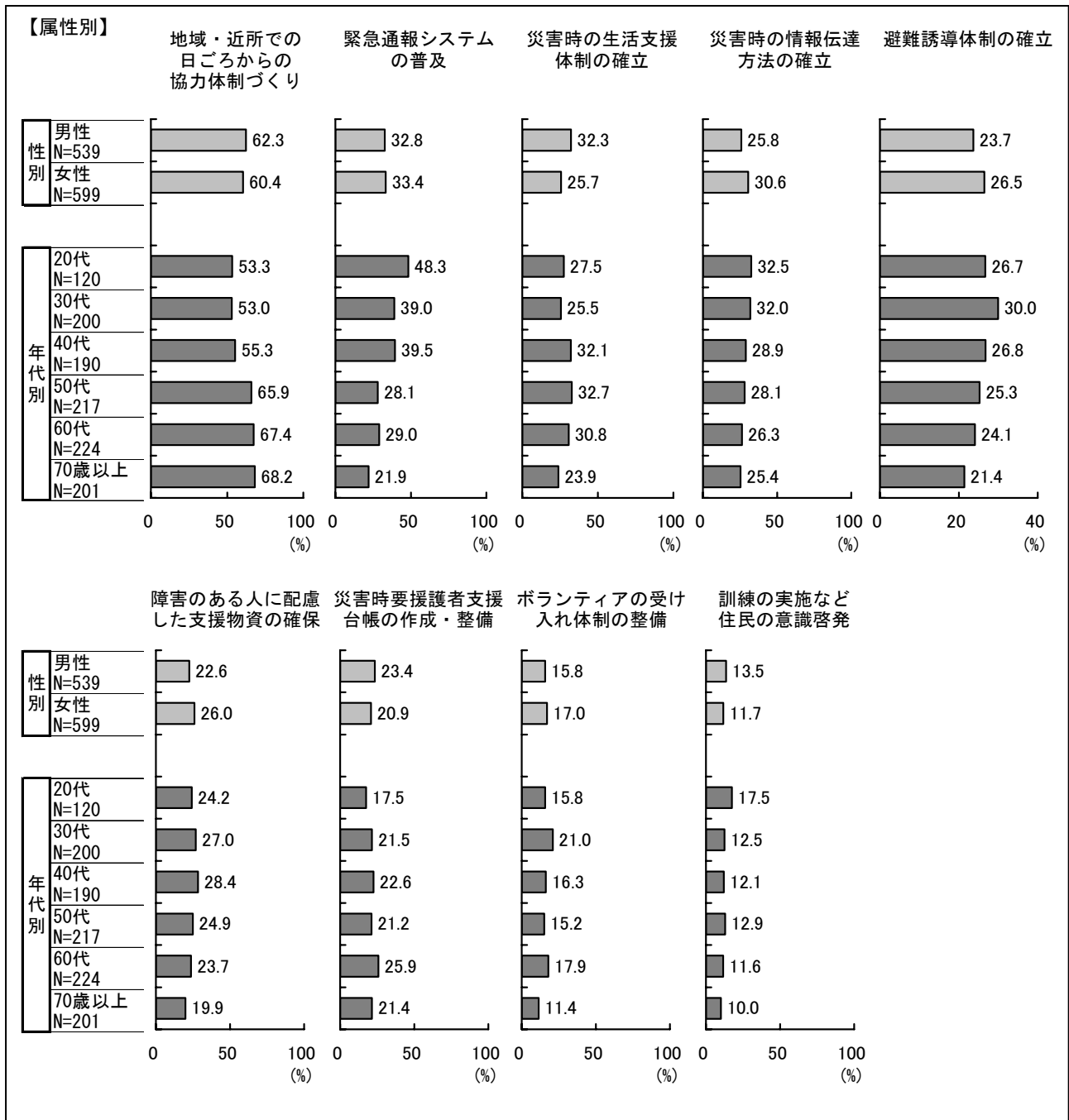


災害時に備えた取り組みは「地域・近所での日ごろからの協力体制」が6割で圧倒的。しかし、2割以上の項目も多く、必要とされる取り組みは多岐にわたっているといえる。

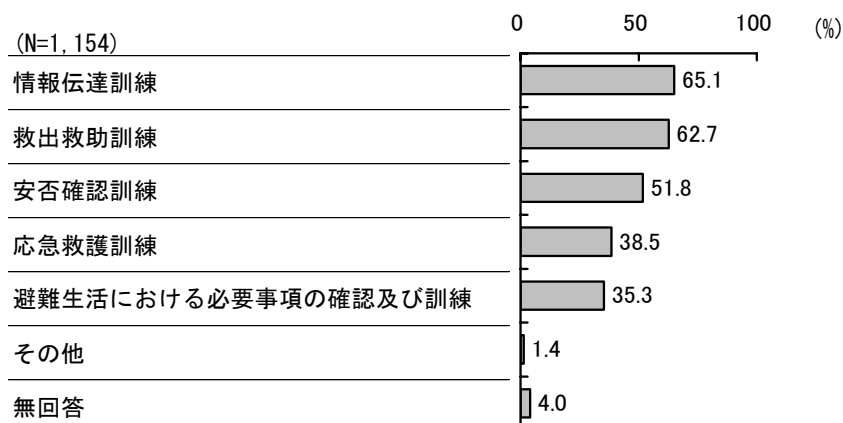
重度障害者や寝たきりの方に対する災害時に備えた取り組みは、「地域・近所での日ごろからの協力体制づくり」が61.3%で、圧倒的に多くなっている。次いで「緊急通報システムの普及」が33.0%、以下は2割台で上位7項目まで続く。9項目中7項目は2割を超える回答で、必要とされる取り組み内容は多岐に渡っており、きめ細かな対策が求められるといえる。

次頁のグラフのように性別で比較すると、「災害時の生活支援体制の確立」で差がみられ、男性が6.6ポイント女性より高くなっている。他は5ポイントに満たない差である。

年代別では、多くの項目の傾向として、年代が高いほど回答率が低くなっているが、全体で回答の最も多い「地域・近所での日ごろからの協力体制づくり」は、年代が高くなるにつれて割合も高くなっている。

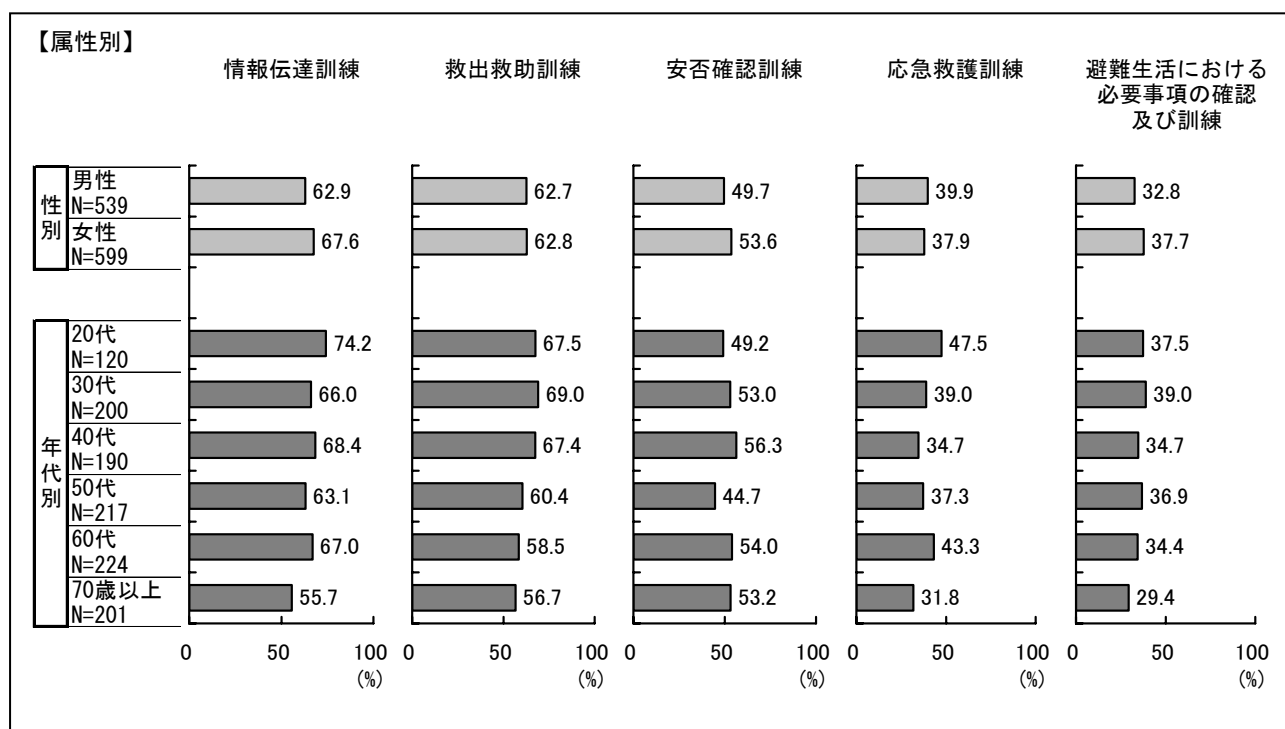


問 26 災害時に、重度障害を持つ方や寝たきりの方に迅速に対応するため、防災訓練で必要と考えられることは何ですか。(いくつでも○)



災害時における重度障害者等の対応に必要な訓練は「情報伝達」「救出救助」で6割。「安否確認」まで半数を超える回答で、訓練の重要度が高い。

重度障害者や寝たきりの人の迅速な対応に必要な防災訓練は、「情報伝達訓練」が65.1%で最も高く、次いで「救出救助訓練」が62.7%、「安否確認訓練」が51.8%で、5項目中の3項目で過半数の回答があり、いずれの訓練も重要度が高いといえる。



性別にみると、上位3項目はいずれもわずかながら、女性が男性を上回っている。

年代別では、全体的に20代、30代の若年代層の方が、やや回答が多い傾向である。